



発刊■2009.12.17 発行■下関市立大学附属地域共創センター

市内の高校生による「鯨研究」を募集しています！

近代捕鯨発祥地である下関市に所在する本学は、捕鯨資料を収集・展示し、鯨文化を世界へ向けて情報発信することを目的に、平成19年11月に鯨資料室を開設いたしました。本年、資料室開設から2周年を迎えるにあたり、下記のとおり下関市内の高校生を対象に、幅広く鯨をテーマとした研究を募集しております。ふるって応募いただきますよう、お願いいたします。

記

- 1 募集締切 平成21年12月18日(金)17時
- 2 募集テーマ 鯨に関することなら何でも可。(例:鯨と環境問題、捕鯨史、鯨による地域おこし、鯨の料理、鯨肉製品開発など)
- 3 応募資格 下関市内所在の高校に在籍、若しくは市内在住の高校生
(2名以上のグループ)
- 4 提出様式 パワーポイントのスライドをプリントアウトしたもの1部に簡単な要旨
(200字程度)を添付して郵送してください。
- 5 審査方法 学内で予備審査を実施し、上位3チームは平成22年2月中旬実施
予定の鯨資料室シンポジウムで研究成果を発表していただき、最優秀
を決定いたします。最優秀グループには表彰状、図書券等を進呈
いたします。なお、参加グループの代表者の方は、シンポジウム第2
部で開催予定の専門家を交えてのパネルディスカッションに参加して
いただきます。
- 6 その他 研究発表に必要な資料等の提供は、本学鯨資料室で行いますので、
お気軽にご相談ください。
- 7 問い合わせ先 下関市立大学附属地域共創センター
Tel 083-254-8613/Fax 083-253-5091
E-mail chiikikyoso@shimonoseki-cu.ac.jp

連載第 3 回 下関と鯨を検証する③

地域共創センター委嘱研究員 岸本充弘

前回は、下関の鯨の象徴とも言える旧大洋漁業本社ビルについてご紹介しました。残念ながら取り壊しが決定し、現在解体作業が進んでいます。旧大洋漁業本社ビルは、下関の水産都市としての象徴であり、また捕鯨全盛期を象徴する建物であっただけに非常に残念です。今回はその大洋漁業の捕鯨船を建造していた関連会社である、旧林兼造船(現・サンセイ株)のドックをご紹介します。

林兼造船は、大正 5 年に中部鉄工所として発足しました。当時ドックは、現在の中国電力下関支店付近にあったようです。大正 8 年には林兼造船鉄工所となり、昭和 11 年には彦島本村(現在地)に第二工場を設置、更に昭和 13 年には彦島田の首(現在はドック・工場共取り壊されています)に第三工場が新設され、規模が拡大されていきます。戦後は特に大洋漁業の捕鯨船、運搬船、トロール船等を中心に建造し、下関で建造された捕鯨船や仲積船は 40 隻以上にものぼります。造船不況や水産業の衰退により、林兼造船は昭和 62 年 12 月に 72 年にわたる輝かしい歴史に幕を下ろし、修理部門を中心とした新林兼造船に引き継がれ、現在はサンセイ株が調査捕鯨で使用される目視採集船等のメンテナンスを行っています。

現在サンセイが使用しているドックは戦前に作られたものを改修しながら使用しており、既に 80 年以上経過していると言われています。ドライドックは写真で見られるように、構造が階段状になっているのが特徴で、横浜のドックヤードガーデンにあるドックと形状が似ています。サンセイの工場内の建物も、旧呉海軍工廠から移築されたものもあり、また工場の建物にも米軍機の弾痕が残っていると言われ、戦前・戦後を通じて下関の水産都市の繁栄と衰退の歴史を見続けてきたことと思います。



旧 林兼造船(株)ドック(現 サンセイ株)



旧 林兼造船(株)ドック(現 サンセイ株)

鯨資料室トピックス

小学校でクジラ教室開講

日時:平成21年6月30日

13:05~13:50

場所:下関市立向山小学校体育館
(山口県下関市向山町 14-1)

講師:岸本 充弘

(下関市立大学附属地域共創
センター委嘱研究員)



くじらクイズに挑戦する児童たち



鯨授業を行う岸本研究員

地元の小学校にて、本学委嘱研究員が先生となり、総合学習「くじらのおはなし」の45分間授業を行いました。

当日は、2年生とその保護者、約100名が参加し、全長25メートルのシロナガスクジラと同じ長さのロープに沿って並び、くじらの大きさを体感したり、くじらに関するクイズに挑戦したり、楽しみながらくじらについて学びました。

さらに、本学鯨資料室に展示しているクジラの歯やヒゲに触れた児童たちは、興味深そうに手ざわりを確かめていました。

今後もこうした活動を行い、くじらに対する興味や知識を深める手助けをしたいと思えます。

クジラ研究家が資料室を訪問

10月5日、欧米クジラ研究家6名のグループが鯨資料室を訪問しました。

この6名は、鯨に関係の深い国内各地を視察するために日本を訪れ、この度鯨資料室を視察しました。捕鯨船の模型や設計図、民芸品等の展示品を見ながら、委嘱研究員による説明を熱心に聞いていました。

後日、視察団からクジラ関連の書籍等を寄贈していただきました。展示の準備が出来次第、資料室に展示いたしますので、是非ご覧ください。



クジラ研究家のみなさん

資料室へお越しください！

10月21日、京都大学文学部2回生の須藤 梢さんが鯨資料室を訪問しました。



展示品を熱心に見学する須藤さん

須藤さんは、講義の課題で下関と鯨について調べるため、下関を訪れました。

「鯨に関する資料を探してみたが、なかなか見つからなかった。資料室の資料の多さに驚いた。」と話していました。

鯨の資料を探されている方、鯨に関心のある方は是非一度、鯨資料室へお越しください。

鯨資料室からのお知らせ

鯨資料室では、くじらに関する文献・資料等を収集、展示しております。

くじらに関する資料をお持ちの方で、資料室にご寄贈またはご貸与いただける方は、是非ご連絡ください。

鯨資料室だより 特集号

発刊 2009年12月

発行 下関市立大学附属地域共創センター

〒751-8510 山口県下関市大学町二丁目1番1号

Tel 083-254-8613 / Fax 083-253-5091